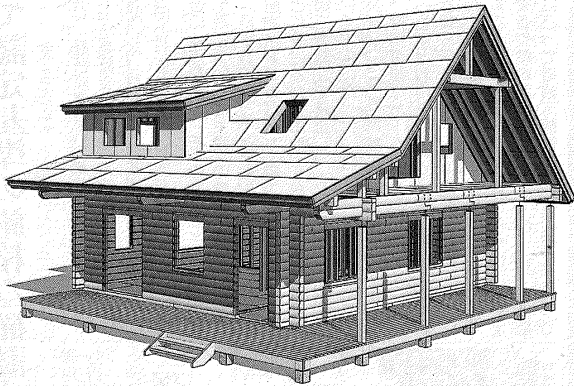
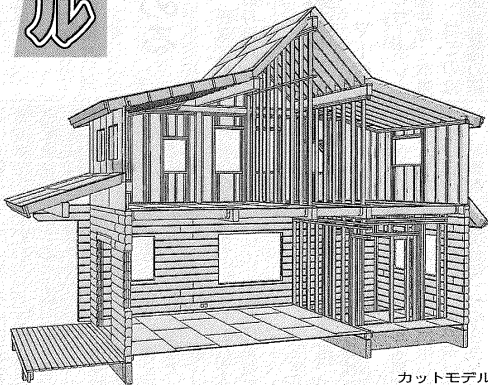


ログハウスCADを開発

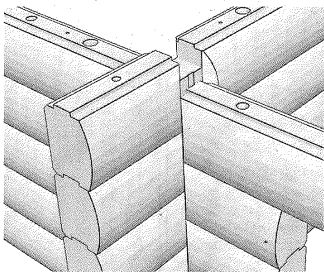
ネットイーグル



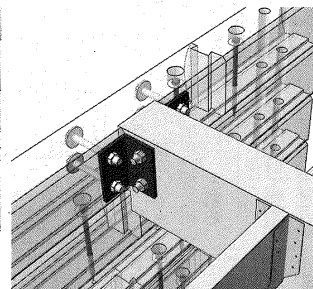
全体パース



カットモデル



加工パース



加工パースは、ログの加工に前向きな工場も増えていて、国産材製材業界にとっても大径材を有効活用できる更に対応しにくく、何より

XF15に対応、2×4との混構造も可能に

ネットイーグル(福岡市、祖父江久好社長)は、非住宅・大断面対応CAD「XF15」のオプションとしてログハウスCADを開発した。マシンカットログの接合部をCAD/CAMで加工するシステムで、角ログ、Dログのどちらにも対応。製作金物やタボのポルト穴も入力、加工できる。2×4工法との混構造や2×4パネルの間仕切り利用も可能。ログハウスの生産を合理化できるシステムとして普及を図る。

国産材利用、国内加工のニーズ高まる

ログハウス(丸太組構 確認申請ベースで年間5法)は1000年の技術。50棟前後、申請が不要基準告示(同年施行、02)な物件を含めると1000年告示改正)によって建 0棟規模で建設されてい設が可能となり、近年は ーと見られている。従来

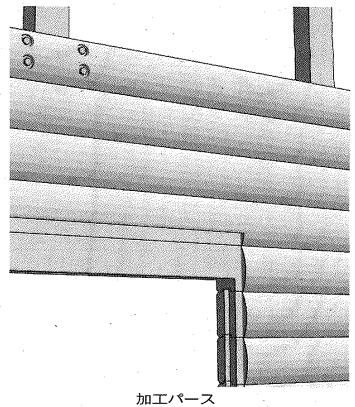
は別荘などの需要が多かったが、準耐火構造認定の取得などにより、最近 は一般住宅としてのログハウスも増えている。2×4工法との混構造などでデザインも洗練され、消費者にとっても身近な工法となりつつある。

ただ、ログの原産地は欧州が7割弱、北米が2割弱と輸入材が圧倒的で、現地で加工、キット化されて輸入されるケースが多い。キット化された材料は便利だが、コストがかさむうえに設計変更に対応しにくく、何より

りも国産材への対応が難しかった。国内で加工できればコストを低く抑えられ、設計変更への対応力も高まるほか、国産材も利用しやすい。

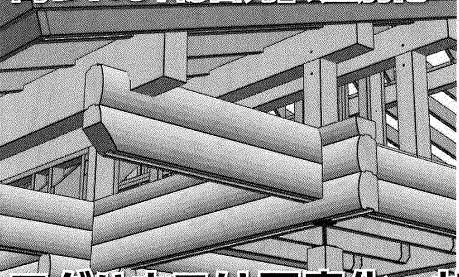
住宅プレカット並みの合理化へ

ログハウスCADは、登録されたログのサイズや形状に基づき、平面図からログ部材を自動生成する。同社独自の断面図入力機能で、既製品の金物も自在に認しながらの追加入力できる。開口部や接合部の両脇に通すタボ穴も「ラクスクリュー」で「連続」「千鳥」を選べば、自動で配置される。2×4工法との混構造、2×4パネルの間仕切り利用も可能。接合部の取まりは3次元パースであらゆる角度から確認できる。木拾い積算、金物積算もコンピューターで自動化され、木造軸組、2×4ラレカット並みの合理化が可能になる。

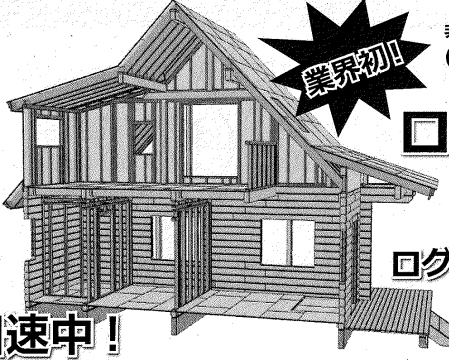


加工パース

問われる「総合力」、差別化へ



ログハウスは国産化へ加速中!



非住宅プレカットCAD
OPEN-NET XF15
オプション

ログハウスCAD

角ログ/Dログに対応
ログと2×4の混構造も可能

先進システムで未来を切り開く

NET EAGLE
ネットイーグル株式会社
<https://www.neteagle.co.jp>

本社
〒819-0001
福岡市西区小戸
3-54-50
050-3536-5961

中部テクノセンター
〒483-8213
愛知県江南市古知野町
朝日165 ナガタニビル3階
050-3538-0221

東京CADセンター
〒108-0023
東京都港区芝浦2-14-4
オアゼネクサス芝浦5階
050-3533-2894

ネットイーグル（福岡市、祖父江久好社長）は非住宅・大断面対応CAD「XF15」のオプションとしてログハウスCADを開発した。マシンカットログの接合部をCAD/CAMで加工するシステムで、角ログ、Dログのどちらにも対応。製作金物やダボのボルト穴も入力、加工できる。2×4工法との混構造や2×4パネルの間仕切り利用も可能。ログハウスの生産を合理化できるシステムとして普及を図る。

ログハウスCADは登録されたログのサイズや形状に基づき、平面図からログ部材を自動生成する。同社独自の断面図入力機能を搭載し、断面図で確認しながらの追加入力も可能。様々なパターンのノッチ加工、窓回りのキー溝加工、幕板の欠き込み、土台の継ぎ、コンセントボックス、電気配線穴なども自在に入力、加工できる。

ログハウスのCAD/CAM加工可能に

XF15でオプション開発

ネットイーグル

きる。木拾い積算、金物積算もコンピュータで自動化され、木造軸組、2×4プレカット並みの合理化が可能になる。

1000棟規模で建設されていると見られている。

ログの原産地は欧州が7割弱、北米が2割弱、国産材が1割強と輸入材が圧倒的。輸入材は現地加工、キツト化されて輸入されるケースが多く、国内の加工体制はあまり整っていないかった。

XF15で動作するた

め、既製品の金物も自在とより製作金物も自在に入力できる。開口部や接合部の両脇に通すダボ穴も「ラグスクリユー」で「連続」「千

鳥」を選べば、自動で配置される。2×4工法との混構造、2×4パネルの間仕切り利用も可能。接合部の収まりは3次元パースでありゆる角度から確認で

技術基準告示（同年施行、2002年告示改正）によって建設が可能となり、近年は確認申請ベースで年間500〜600棟、申請が不要な物件を含めると

キツト化された材料は便利だが、コストがかさむうえに設計変更に対応しにくい。国内で加工できればコストを低く抑えられ、設計変更への対応力も高まる。国産材も利用しやすくなることから、CAD/CAMへのニーズが高まっていた。